

「ツマグロヒョウモンの幼虫」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

アゲハやモンシロチョウと並んで、都会地でも身近な蝶の一つに「ツマグロヒョウモン」がある。成虫は名の通り、棲(つま=羽の下の方)が黒い豹紋模様の蝶で、優雅に飛ぶ姿が美しい。しかし、幼虫は少々(いや、かなり)グロテスクである。



ツマグロヒョウモンの幼虫の食草は、スミレ科の葉である。タチツボスミレなどの自然のスミレはっもちろん、パンジーなどの園芸種の葉も好む。小学校の花壇にはパンジーが多いので、今の時期、幼虫がよく見られる。幼虫は全身刺だらけで、色も派手で、いかにも毒がありそうだが、無毒で刺すこともない。従って、指や腕に載せても大丈夫だ。



この男の子は虫好きで、ツマグロの幼虫が無毒なこともよく知っている。女の子にも「指にのせてごらんよ」とすすめていた。しかし、女の子はこの幼虫を見るのが初めてで、最初は「ダメ!絶対に、ムリッ!」と「引いて」いた。



しかし、そのユーモラスな動きにだんだんと魅せられて、だんだん近づいてきて、指先で触り始めた。



ついに、指にのせて遊びだした。その様子を見ていた男の子は「それ、あげるよ、ぼく、もう一回探すから」と、また花壇に幼虫を探しに行ってしまった。かくして幼虫の「所有者」になった女の子は、幼虫大切に持ち帰った。お母さんは、さぞびっくりしただろう。